琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄関係 軍用地問題（視察・報告・調査資料）(1)

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2019-02-07
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: -
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43648

中澤原水協 [illegible] 登

事務次官
近藤外務審議官
条約局長
参事官
条約課長
アメリカ局長
参事官
北米第一課長

総沖第６２１号

昭和４４年３月１日

総理府特別地域連絡局長　殿

日本政府沖縄事務所長

在沖米軍基地に関する沖縄原水協（社会党系）調査報告書の送付について

外務大臣あて往電第８５号（総務長官へ第８５号をもつて申進めた在沖米軍基地に関する沖縄原水協（社会党系）の２月２５日付調査報告書「最近の基地調査と情報集取より」を１部別添送付する。

付属物添付

本信写及び付属物送付先：　外務省アメリカ局長

要処理	
首席事務官	
南	
渉外	調査
漁	業
航	空
科学協力	
連絡調査	
調	査
カナタ	
局庶務	

日本政府

231

一九六九年二月二九日

報告

最近の基地調査と情報集取より

原水爆禁止沖縄県協議会

知花の新しい軍用道路工事

これまで勝連村のホワイトビーチから知花の弾薬貯蔵所に各種弾薬を運搬するには十三号線道路から美里を通り十六号線道路から貯蔵所へ運び込まれていました。

しかし、今度知花の弾薬貯蔵所中腹から直線で登川の第三海兵師団本部前までの約三キロの間に新しい軍道路の工事がや昨年十一月中旬からはじめられています。

この一帯は黙認耕作地で福地原、マサク原、久志原にまたがり大規模な工事が進められています。

この道路が完成すれば、これまでの知花廻りより、時間的に短縮され、住民の目からさけて秘密に各兵器を持ち込もうという計画のようである。（この道路工事には沖縄人は一人も従事しておらず米人、黒人だけで進められている。）

また、この工事の中間の丘の上には将校クラブ建設がはじめられており、このクラブが完成すれば付近の施設も拡張されるものと思われる。また、登川、美里方面の黙認耕作地の取上げも予想しなければならないだろう。

この一帯は山の中で、米軍基地も外部からは様子がうかがえないところであり、この一帯にも現在、私達の予想以上の基地があることを忘れてはなりません。

この辺は海兵隊の移動も激しく、知花、多幸山の核貯蔵所への秘密道路もこの山の中を通っていることから、警戒はきびしく、基地工事も一般住民にはわかりかねるように部分工事で進められている。

一方、知花、登川部隊の西北方の山林（松林）の中にはロケット弾が野ザラシにされ、青いテントでおおいされたのが数十ケ所にある。

また、核が貯蔵されているといわれるスケ山ダムの上の小高い貯蔵所は核の街とも呼ばれ、夜は水銀灯が数百本も立並び、蟻一匹でも目視できる体制にある。ここに働く従業員にはガイガー計数器（バッチ型）による放射能有無体制もとられているという。

このような危険物が野ザラシにされている上空はB52、F一〇五、F四〇のような核装備機をはじめ嘉手納基地に離着陸する各種航空機の誘導路となっており、万一の事故を考える場合、沖縄のおかれている危機そのものがこの一帯だけでもうかがえる。

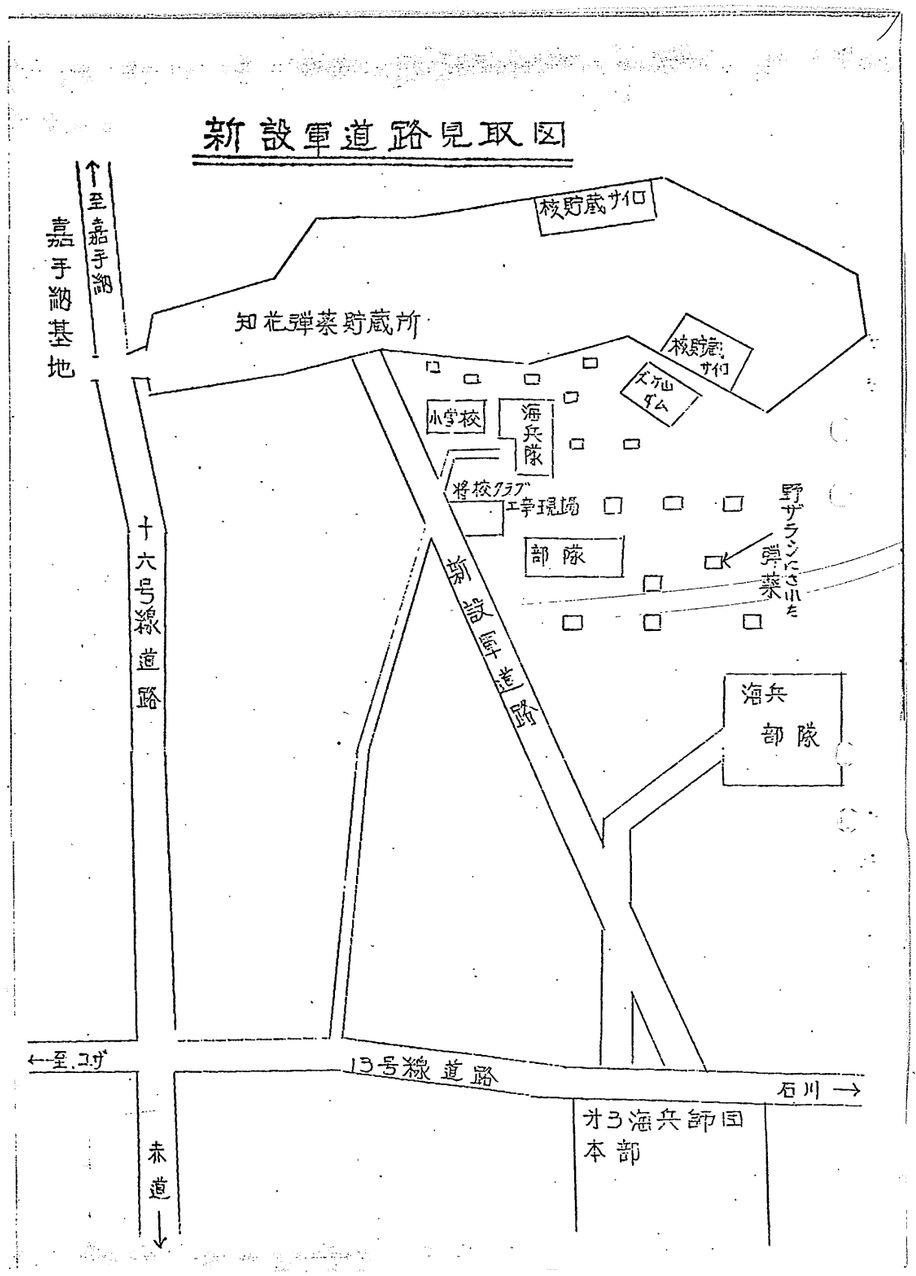
この弾薬貯蔵所に核が運ばれる時（水爆と思われる）には大型トレーラにジュラルミン製白色箱（巾九尺程度、長さ十八尺程度）が人間の歩行よりもおそい速度で救急車を先頭に厳しい警備陣をもつて運び込まれるという。

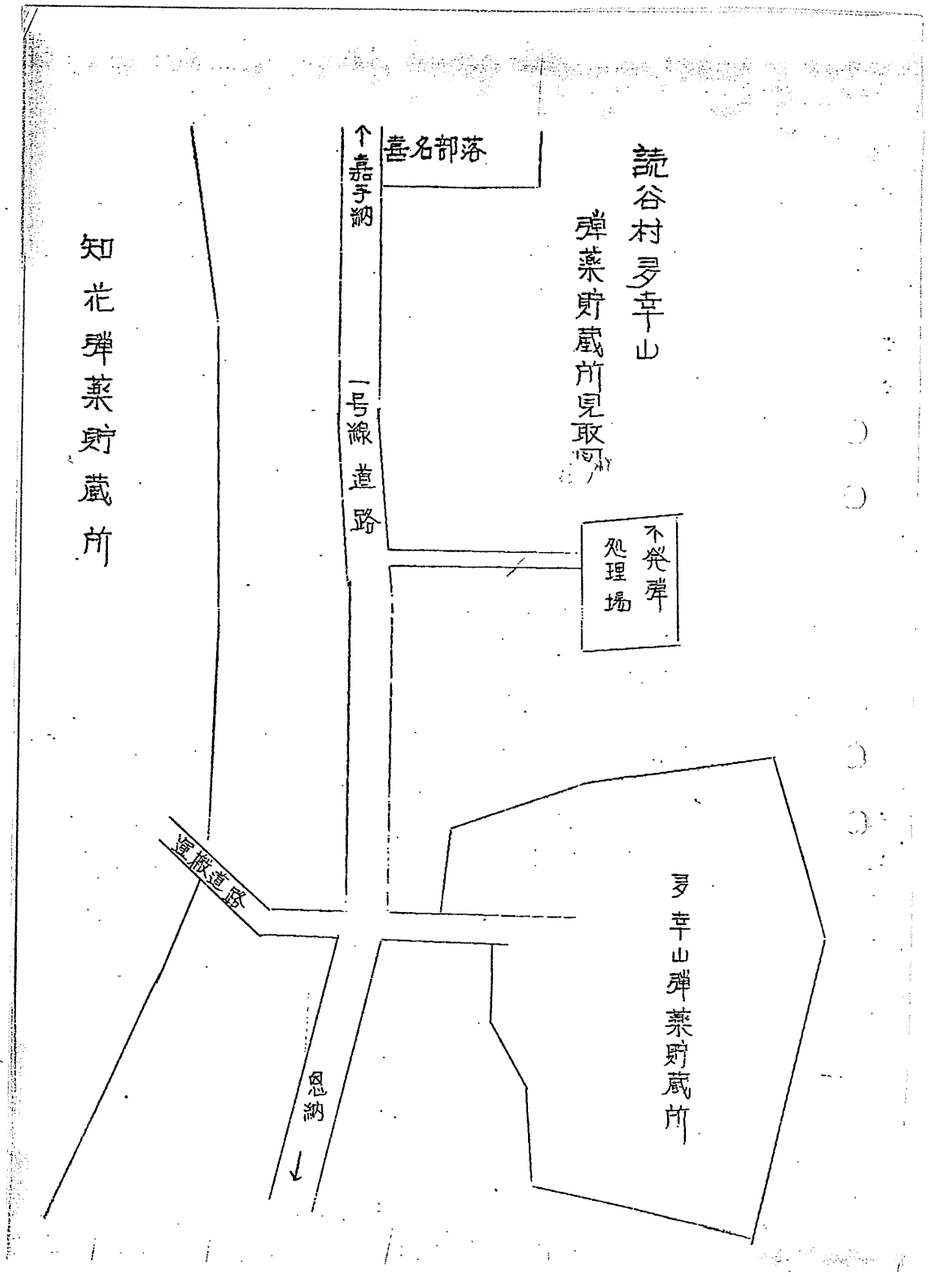
核倉庫の新設

沖縄の米軍基地でも知花、多幸山にかけての弾薬貯蔵所は面積にしろ施設にしてもアメリカ唯一の弾薬貯蔵所といわれており、そこには小銃弾から戦車砲、核弾頭、水爆までが貯蔵されているといわれ、その施設も各々異なり、運営規則も各々異つているといわれ、アメリカの最新弾薬でそこに納められていないものはないといわれている。

これまでも倉庫不足で悩んでいた米軍にとって、奄美の復帰で硫黄島の基地に核が置けなくなつたことや基地が後方にあつたこと、当基地が沖縄基地管轄にあつて不利であつたことなどから沖縄に移されたため一層倉庫不足となつている。最近の基地の動きの中で特に注目されるのは弾薬倉庫の拡張であり、しかもそれが核用であることは既存の通りであります。

知花貯蔵所内だけでも最近で六基が完成し、更に五基が工事中という。多幸山貯蔵所も拡張工事がなされ、久志村の臨海両の弾薬貯蔵所など急激な動きをみせている。





久志村辺野古に弾薬貯蔵所

一九六八年八月中旬からアメリカのピマロー社によつて辺野古の陸軍用弾薬貯蔵所に隣りあわせて海軍用の弾薬貯蔵所が着工され、今年二月ほぼ完成しています。その一帯は軍用地で工事現場には二重の金網がはられ、その中で工事が進められていた。

この基地の施設はアメリカでも最も新しい計画にもとづいて作られているといわれ、他の米軍基地でもみられない施設といわれている。その一つはこれまでの弾薬貯蔵所は山の谷間につくられてきていますが久志村の場合は山の頂上につくられ、海に直接面していることや地下道で弾薬を運び込む方式等があげられていることなど、その他にも秘密裡に進められている新しい施設という。

大浦湾内もわずかの費用をかければポラリス型原潜やポセイドン型原潜が六、七隻も一度に寄港できるというからアメリカにとつてはベトナム戦目的というよりむしろ対中国への戦略体制であるといわざるを得ない。

また一九六六年にはこの一帯の山林一八万坪余りも測量されており、現在のキャンプシュワーブの海岸線を埋め立てて小型機の飛行場建設の計画があるとのこと等からして、大浦湾を中心に今後の基地拡張、強化はさけられない情勢にある。

この大浦湾には以前にも軍港建設が着工されようとした（旭サルベージによつて）が漁民の反対にあつて一時ひそんでいたものですが地理的にもアメリカが見放すことのできないところであり、今度新設された

弾薬貯蔵所も当所は原潜用のサブロックが持ち込まれるとの噂が主だつたが、その後ポラリス。ミサイルの噂が出され、更に一九六八年に開発されたポセイドン。ミサイルの噂が大きくなつてきている。しかし、ポセイドンをアメリカでも実戦化するまでには至つていないとのいつたいます

一部情報ではポセイドンを装備した原潜がグアム島基地に配置されているということと、アメリカが沖縄返還の時の基地の態様についてポラリス基地ということを主張していることから大浦湾にはサブロックだけでなくポラリス、そしてポセイドン原潜まで寄港させることは間違いないものといえる。

ポラリスミサイル・サブロック。ポセイドン等について次にすこしふれておきましよう。

◎ポラリス型原潜

一九五六年、米海軍はウイリアム。レイボーン准将を所長とした特別計画事務所を設置し、固定燃料ロケットの開発に当つたが、一九五八年にはポラリスと名付けられたミサイルが出現し、これを原子力潜水艦に装備されることになり、現在では四十一隻の原子力潜水艦に装備されているという。

このポラリスミサイルは（AⅠからAⅡ、AⅢからAⅣと改善され）長さ七、八メートルで爆発力は一発で〇、六メガトン水爆弾頭（広島型の三〇倍）をつけており、ポラリス型原潜一隻に十六基装備されている（原潜司令塔のうしろの上甲板にマンホールのふたのようなものでおおわれ、二列に並んで納められている。）その十六発は水中から連続して十五分間で全部発射できるという。

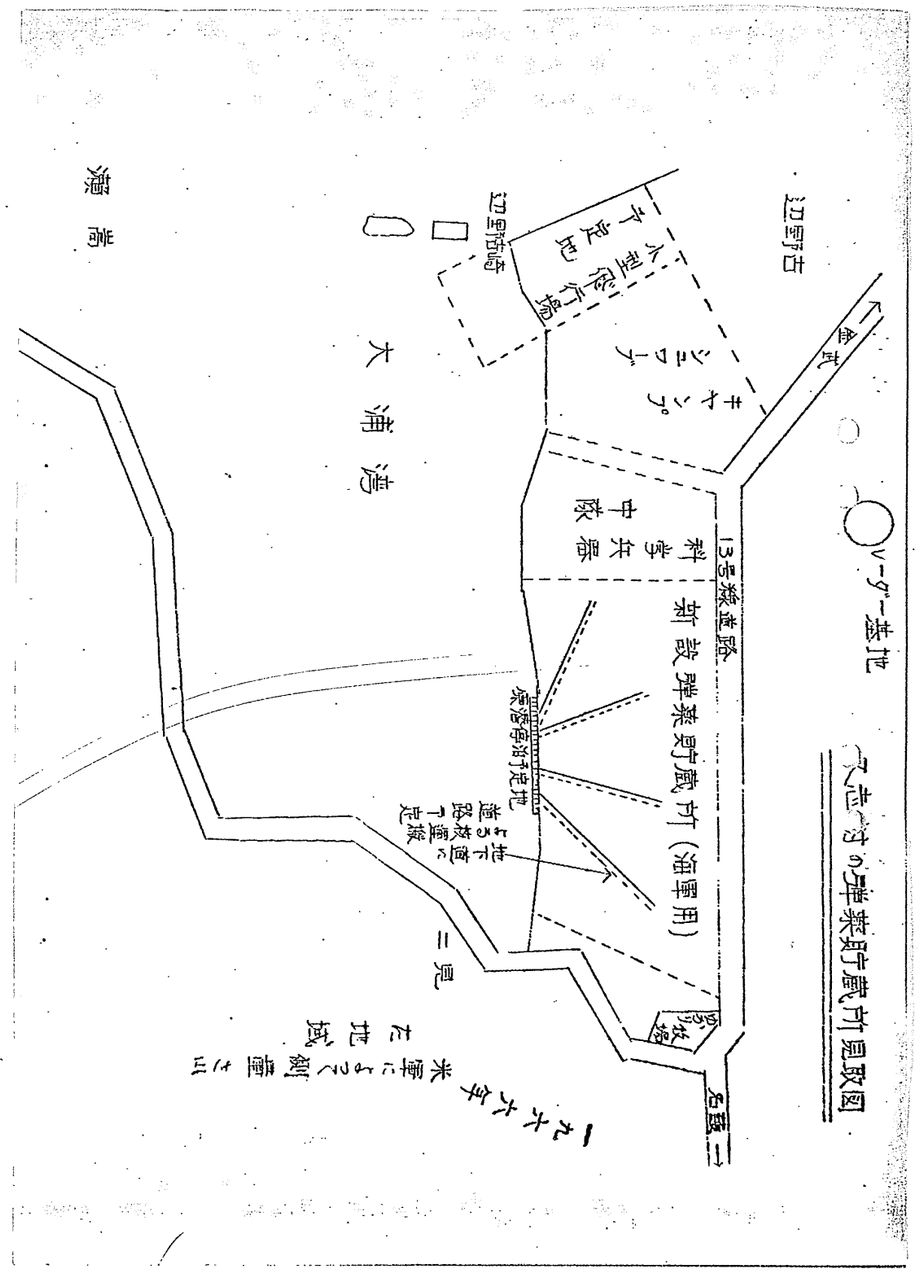
◎ポセイドンミサイル

ポラリス。ミサイルが開発されて既に十年以上もたつており、一隻にポラリス。ミサイルを十六基も積み込んでいても全部を同時に発射できないため、一発発射すればすぐその位置がAB M網にとらえられることなどから、一九六五年からポラリスAⅢの遠射能力を倍増する計画がすすめられ、一九六八年八月にポセイドン。ミサイルとして開発された。（複数弾頭発射）ものでアメリカは現在のポラリス型原潜四十一隻中、三十一隻にはこのポセイドン。ミサイルを装備しポラリス型は十隻程度にするようであるが、このポセイドン。ミサイルはアメリカでは十分に実戦用としての確信はもつていないという不安定なミサイルだけに最も危険性をもつたミサイルといえましよう。

その爆発力は一基で二～三メガトン射程八、〇〇〇キロの水爆弾頭を付けており（広島型の六〇倍）ポセイドン型原潜にはそれが十六基装備されている。

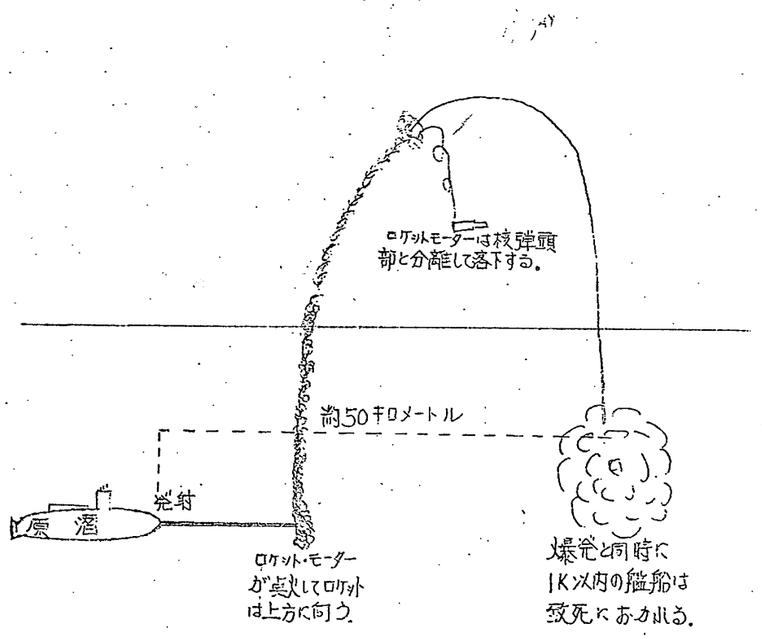
（現在ラファイエット号をはじめポラリス型原潜の主力をなしていた原潜が改善されてポセイドン装備をしている。）

大志村の弾薬貯蔵所見取図



サブロシクの発射図解

原潜のパーミット号・プランジャー号・バーブ号
クイーンフィッシュ号・フラッシャー号・スヴッシャー号等
の攻撃型原潜に装備されており、1度に10発
装備されている(1発で広島型と同じ爆発力).



沖縄におかれている核弾頭数量

※次の数字は沖縄各地に配置されている機台数と合せてみて最少限度の必要数といえます。しかし、二月二十一日の衆議院予算委員会公聴会で楢崎氏が発言した「沖縄には核弾頭が千発あると思う。」という数字とはかなりの差があります。

△メ1B……四基地× 八基× 三＝九六発発（最近で新型に切りかえられている）
△ナイキ・ハーキュリーズ……十六基×三〇＝四八〇発
△ホーク・ミサイル……十六基×三五＝五六〇発
△リトル・ジョン……十二基×三〇＝三六〇発
△F一〇五装備……七五機× 四＝三〇〇発
△F四〇装備……五〇機× 四＝二〇〇発
△B52装備……二二機× 二＝四四発（ポウンド・ドック）
△その他原子砲弾……不明

計 二、〇四〇発

沖縄におかれている核弾頭はおおよそ十二種類とみられ、前記の数字にもその他予備用の数量も加えて考えるべきでしょう。

嘉手納に駐留しているB52は全機水爆を積んでいるのか

最近よく嘉手納に駐留しているB52は全機水爆を積んでパトロールしているのか／といわれています。

しかし、これまで原水協が各方面から得た情報によりますと、本会が当初見込んでいたように、全機に水爆は積んでおらず現在二十二機が駐留していますがその中の四～五機が水爆を常時積んでいるようです。（但し全機とも水爆二十四メガトンまでは積める弾倉をもっている）